

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が129例(男性66例(10歳代1例, 20歳代10例, 30歳代7例, 40歳代6例, 50歳代10例, 60歳代8例, 70歳代6例, 80歳代15例, 90歳代2例, 年齢非公開1例), 女性61例(20歳代8例, 30歳代6例, 40歳代7例, 50歳代9例, 60歳代5例, 70歳代9例, 80歳代9例, 90歳代7例, 年齢非公開1例), 年齢及び性別非公開2例)あり, 本年の累積報告数は2,970例になりました。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.htm>
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が1例(80歳代男性)あり, 症状は発熱です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は3例となりました。
- ・ **アメーバ赤痢(腸管及び腸管外アメーバ症)**の報告が1例(60歳代男性)(第5週追加報告分)ありました。症状は下痢, 腹痛等です。感染地域は中国, 感染経路は経口感染です。本年初めての報告例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(30歳代男性)ありました。感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は6例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html
- ・ **インフルエンザ**は, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。全国的にも報告数はほとんどありませんが, 感染予防には努めましょう。新型コロナウイルス感染症と同様, 手洗いやマスクの着用などが重要です。京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

◆ 今週のトピックス: <アメーバ赤痢>

2021年第6週, 本市では本年初めてとなるアメーバ赤痢の報告がありました。本市の年間報告数の推移を見ると, 2000年までは年間6例以下でしたが, 2000年以後は増加し, 年間20例を超す年もあります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域^{*}, 感染経路^{*}の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・ 二類: 結核 5例(肺結核 2例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例)
【1月以降の累積報告数 22例(肺結核 9例, その他結核 10例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 4例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 129例**【1月以降の累積報告数 2,970例】
男, 66例(10歳代1例, 20歳代10例, 30歳代7例, 40歳代6例, 50歳代10例, 60歳代8例, 70歳代6例, 80歳代15例, 90歳代2例, 年齢非公開1例)
女, 61例(20歳代8例, 30歳代6例, 40歳代7例, 50歳代9例, 60歳代5例, 70歳代9例, 80歳代9例, 90歳代7例, 年齢非公開1例)
年齢及び性別非公開, 2例
- ・ 四類: レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 6例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ [*]	インフルエンザ	0.00	0
小児科	① 感染性胃腸炎	2.60	112
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	40
	③ 突発性発しん	0.30	13
	④ 咽頭結膜熱	0.14	6
	④ 水痘	0.14	6
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

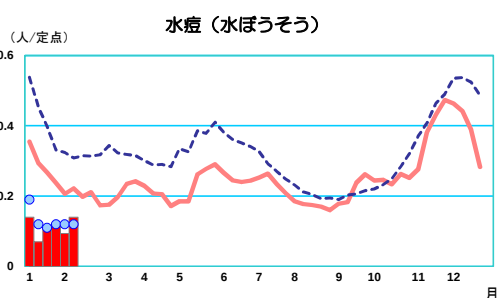
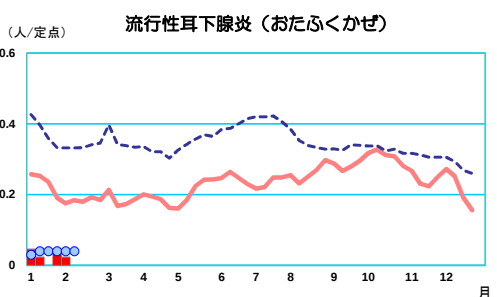
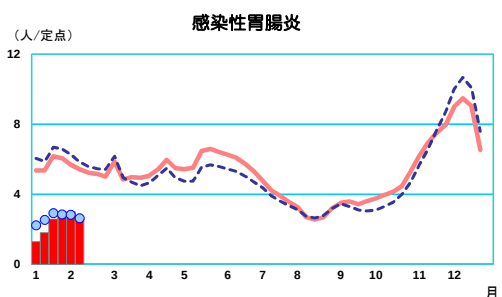
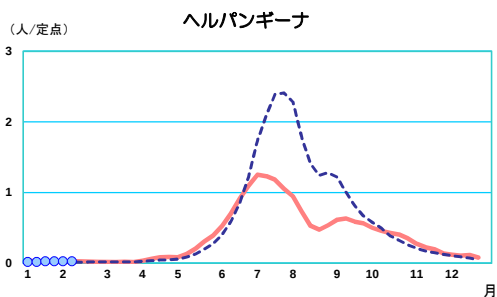
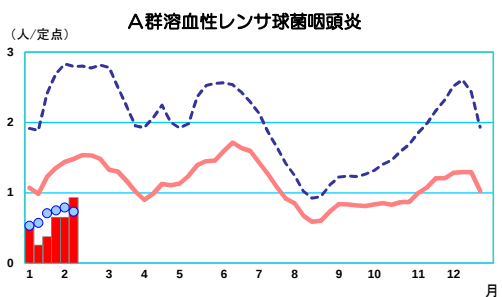
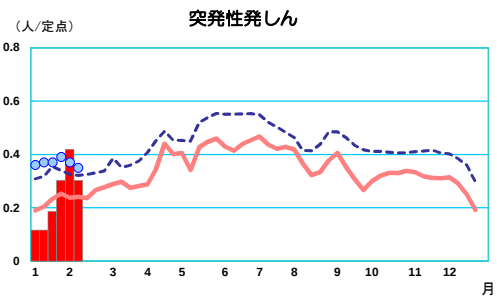
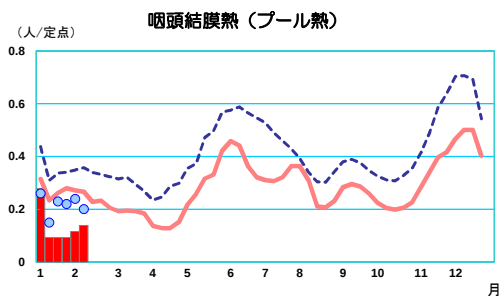
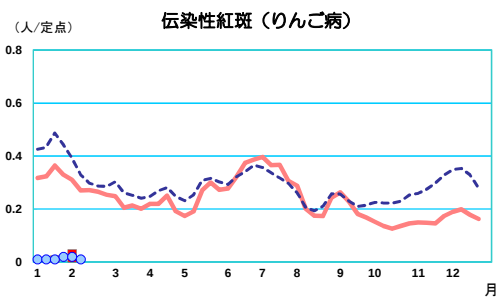
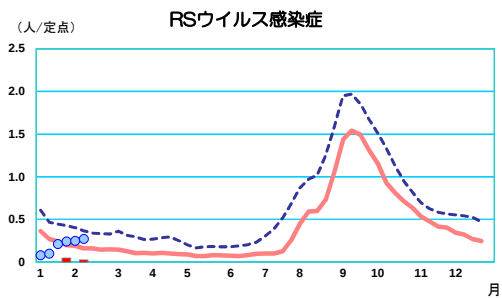
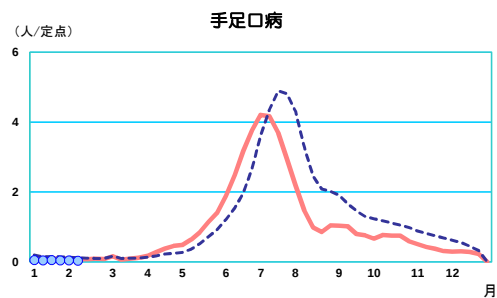
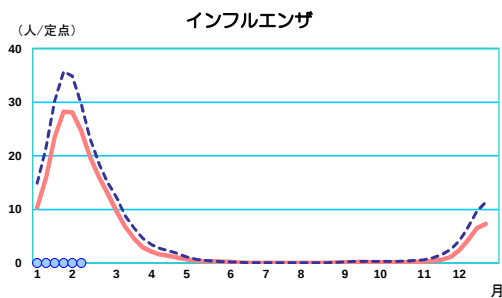
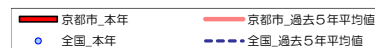
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <アメーバ赤痢>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年2月18日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

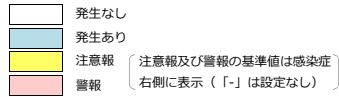
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

^{*} 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

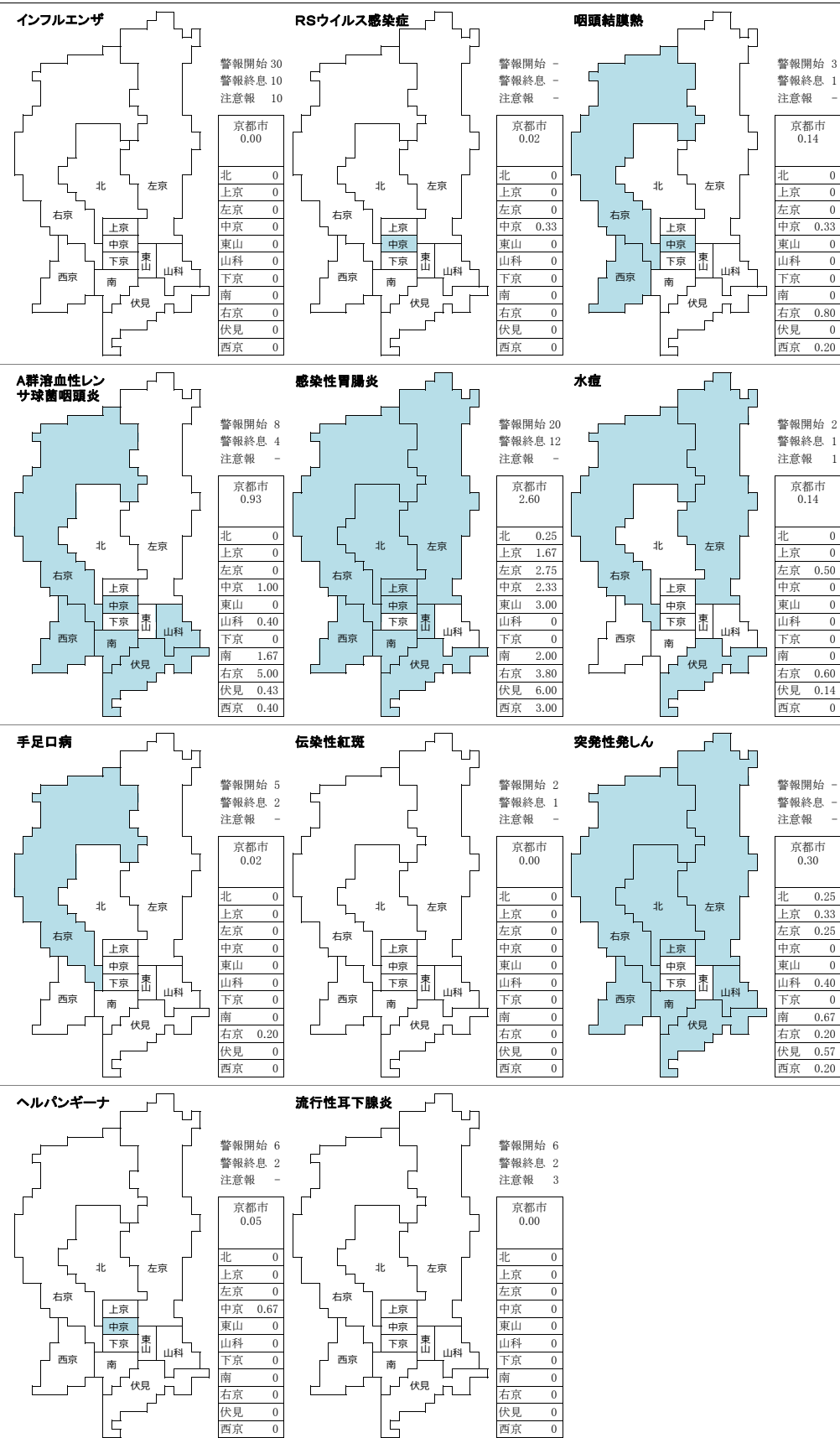
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第6週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第6週(2月8日～2月14日) トピックス: <ア메ーバ赤痢>

2021年第6週、本市では本年初めてとなるアメーバ赤痢の報告がありました。本市の年間報告数の推移を見ると、2000年までは年間6例以下でしたが、2000年以後は増加し、年間20例を超す年もあります(図1)。全国では、戦後すぐは発生が多く、その後の衛生状態の改善とともに減少していました。その後、2000年頃から急増し、一時は年間1,000例を超えていたのですが、ここ数年は減少傾向にあるようです。本市・全国ともに全症例の8割以上が男性で、本市では40～60歳代の男性で全体の6割以上を占めています(図3)。

アメーバ赤痢の原因は、赤痢アメーバ(*Entamoeba histolytica*)です。赤痢は「血の混ざったイチゴゼリー状の粘液を含む便(粘血便)」が特徴的な症状のことで、赤痢を引き起こす病原体には、他に細菌である赤痢菌や大腸菌がいます。アメーバは、決まった形のないスライム状の姿(栄養型)と(図4)、硬い殻を作った休眠状態(シスト)のふたつの姿を持ちます。アメーバの体の構造は細菌より動物に近いので、赤痢アメーバは原虫という寄生虫に分類されています。細菌ではないので、細菌を殺したり増殖を抑えたりする抗菌薬のほとんどは効果がなく、抗原虫薬を使います。

近年、ヒトの便から見つかるアメーバには病原性のある*E. histolytica*と病原性のない*E. dispar*があることが知られていて、*E. dispar*は治療の必要がないといわれています。

アメーバ赤痢に感染した人の便には、大量の赤痢アメーバが含まれていて、このうちシストが口から入ることで感染します(栄養型は胃酸で死んでしまいます)。日本は上下水道が発達しているので経口的に感染することは少なく、衛生状態が悪い発展途上国にゆき、現地でシストに汚染されたものを飲み食いして感染することが多いです。しかし、時に介護施設などで集団発生することもあります。

また、口や肛門を介した性的接触によっても感染するので、アメーバ赤痢は性感染症でもあり、性行為が原因でアメーバ赤痢に感染している場合、梅毒やHIV、B型肝炎など他の性感染症に同時に感染していることがあります。なお、アメーバ赤痢は男性の同性愛者の間で流行することが知られていますが、本市においては異性間の性的接触が感染経路として報告されるほうが多いようです(図5)。

赤痢アメーバに感染すると、数週間経ってから粘血便やしぶり腹(便意があるのに便が出ないこと)、腹痛が現れます。赤痢菌による細菌性赤痢は激しい発熱があり、動けないほど寝込んでしまうことが多いのですが、アメーバ赤痢は発熱があることはまれで、慢性的に長く続きますが軽く済むことが多いです。

しかし、感染した人の1割ほどは、赤痢アメーバが大腸から血液にのって全身に回り、肝臓などに侵入して膿が溜まる場合があります(肝膿瘍といいます)。この場合は発熱や上腹部痛があり、治療しないと命に関わります。ちなみに、肝膿瘍になる人の半分以上は下痢や粘血便が見られないといわれています。

アメーバ赤痢を予防するには、手洗いや消毒など、一般的な衛生管理が重要です。海外へ旅行などで出かける場合には、生水や生野菜、果物を避けて、十分に加熱したものを食べるようにしましょう。また、性的接触によっても感染するため、性行為の際にはコンドームを使用し、感染を予防しましょう。

○京都市情報館ホームページ「手洗いの方法」リーフレット

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>)

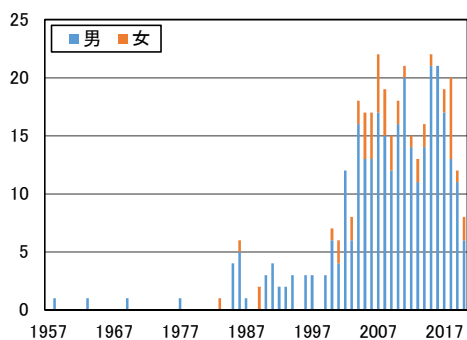


図1. 本市のアメーバ赤痢報告数^{1)※}

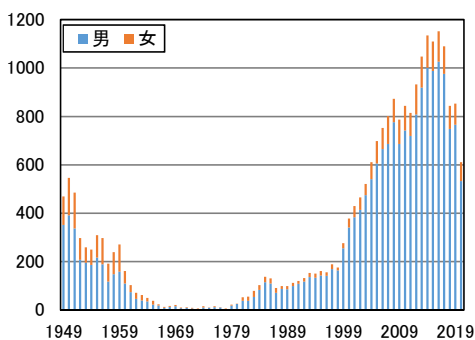


図2. 全国のアメーバ赤痢報告数^{1)*}

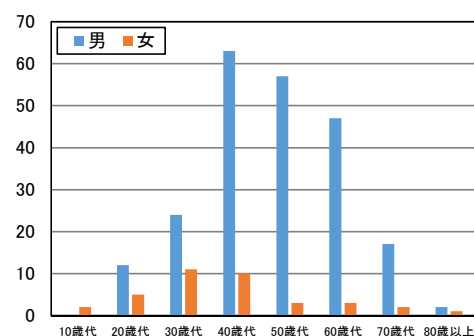


図3. 本市のアメーバ赤痢の性別・年齢階級別報告数^{*}

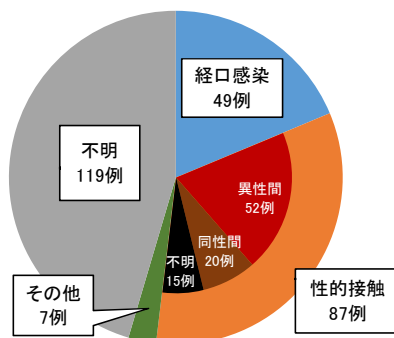


図5. 本市のアメーバ赤痢の感染経路^{#&}



図4. 赤痢アメーバ(栄養型)の鏡検像²⁾

仮足を出して移動する同一個体。
内部の橙色の粒は貪食した赤血球。

本文は以下のウェブサイトを参考に作成(2021年2月19日閲覧)。

○国立感染症研究所「アメーバ赤痢とは」

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/315-amoeba-intro.html>)

1) 昭和24年～平成11年3月までは「伝染病及び食中毒統計」。

平成11年4月～令和2年までは「感染症発生動向調査」を基に作成。

2) 上記の国立感染症研究所「アメーバ赤痢とは」より引用。

※…1957年～2020年までの集計結果を示す。2020年は速報値。

*…1949年～2020年までの集計結果を示す。2020年は速報値。

#…2006年4月～2020年までの集計結果を示す。2020年は速報値。

&…感染経路が複数ある場合があるため、合計は一致しない。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第6週

疾病,行政区別報告数

2021年2月8日～2021年2月14日

データ入手日:2021年2月18日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパン ギーナ	流行性耳下 腺炎	急性出血性結 膜炎	流行性角結 膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	11	2	-	-	1	-	-	-	-					
中京	-	1	1	3	7	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	5	6	-	-	-	2	-	-							
右京	-	-	4	25	19	3	1	-	1	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	3	42	1	-	-	4	-	-	-	-					
西京	-	-	1	2	15	-	-	-	1	-	-	-	-					
京都市計	-	1	6	40	112	6	1	-	13	2	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパン ギーナ	流行性耳下 腺炎	急性出血性結 膜炎	流行性角結 膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	0.25	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	1.67	-	-	-	0.33	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	2.75	0.50	-	-	0.25	-	-	-	-					
中京	-	0.33	0.33	1.00	2.33	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	0.40	-	-	-	-	0.40	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	1.67	2.00	-	-	-	0.67	-	-							
右京	-	-	0.80	5.00	3.80	0.60	0.20	-	0.20	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	0.43	6.00	0.14	-	-	0.57	-	-	-	-					
西京	-	-	0.20	0.40	3.00	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	-	0.02	0.14	0.93	2.60	0.14	0.02	-	0.30	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第6週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年2月8日～2021年2月14日

データ入手日:2021年2月18日

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳- 50歳- 70歳以上	60歳- 60歳- 60歳- 70歳以上	70歳- 70歳以上 70歳以上	80歳以上
男女合計	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	年齢1	6	-	-	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢1	40	1	1	2	3	5	8	5	1	4	4	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	年齢1	112	-	3	8	15	8	8	8	9	10	5	5	15	4	14	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢1	6	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	年齢1	13	-	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	年齢1	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳- 50歳- 70歳以上	60歳- 60歳- 60歳- 70歳以上	70歳- 70歳以上 70歳以上	80歳以上
男女合計	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢1	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	年齢1	0.14	-	-	0.05	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	年齢1	0.93	0.02	0.02	0.05	0.07	0.12	0.19	0.12	0.02	0.09	0.09	-	0.07	-	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	年齢1	2.60	-	0.07	0.19	0.35	0.19	0.19	0.19	0.21	0.23	0.12	0.12	0.35	0.09	0.33	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢1	0.14	-	-	-	-	-	-	0.05	0.02	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	年齢1	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	年齢1	0.30	-	0.12	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	年齢1	0.05	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第6週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年2月18日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1	-	-	2	1	-
RSウイルス感染症	-	-	-	2	-	1
咽頭結膜熱	12	4	4	4	5	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	11	16	28	28	40
感染性胃腸炎	55	77	111	126	129	112
水痘	6	3	5	5	4	6
手足口病	-	1	2	1	3	1
伝染性紅斑	-	-	1	-	2	-
突発性発しん	5	5	8	13	18	13
ヘルパンギーナ	1	2	2	1	1	2
流行性耳下腺炎	2	1	-	2	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	1	3	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	107	105	152	184	192	181

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.01	-	-	0.03	0.01	-
RSウイルス感染症	-	-	-	0.05	-	0.02
咽頭結膜熱	0.28	0.09	0.09	0.09	0.12	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.26	0.37	0.65	0.65	0.93
感染性胃腸炎	1.28	1.79	2.58	2.93	3.00	2.60
水痘	0.14	0.07	0.12	0.12	0.09	0.14
手足口病	-	0.02	0.05	0.02	0.07	0.02
伝染性紅斑	-	-	0.02	-	0.05	-
突発性発しん	0.12	0.12	0.19	0.30	0.42	0.30
ヘルパンギーナ	0.02	0.05	0.05	0.02	0.02	0.05
流行性耳下腺炎	0.05	0.02	-	0.05	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.10	0.30	-	-	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	2.63	2.52	3.77	4.26	4.46	4.21

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。